

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東山開晴館 六原学舎	階数	地下1F,地上3F
建設地	京都府京都市	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	407 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2013年9月13日
敷地面積	5,206 m ²	作成者	業名武
建築面積	1,494 m ²	確認日	2013年9月15日
延床面積	2,409 m ²	確認者	稲田



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 93%
③上記+②以外の 91%
④上記+ 91%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 4.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	小中一貫校の第2校者として、学習を促す場、地域交流、災害時の避難場所として、機能性、安全性、耐久性、意匠性、環境保全を考慮した学校となっている。また、太陽光パネルを設置し、自然エネルギーを利用することで環境教育にも積極的に取り組んでいけるようになっており、一方で環境にも配慮した地域に溶け込むデザインとなっている。	
その他	0	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
教室間及び廊下との間の間仕切壁には遮音性能を持たせている。省エネルギー対策として外壁や床には断熱を施している。また、格子状ルーバーや軒という建築的要素によって昼光	教室の天井高はおおむね2.7m以上に設定しており、空間にゆとりや快適性を確保している。耐震性としては建築基準法の1.25倍を見込んでいる。建築材料はメンテナンスしやすいものとなっている。	外構には緑を適切に配置し、ピオトープを設けることで生物環境の創出に配慮している。周囲の街並みに対しては、瓦葺の屋根、軒、格子という要素によって、京都市の歴史的な景観に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
太陽光パネルの設置により、一定の電力をまかなうことで省エネルギー対策に配慮している。また、居室外壁面に断熱を施すことで熱損失を軽減している。	躯体の一部にプレストレスコンクリートを使用しており、柱を無くしている。内装には腰壁に地域産木材である杉の羽目板を使用している。	建築物周囲に庇を延ばすことによって、ガラスからの反射光を抑制している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される